

平和講話

6月8日(木)1、2校時、ジャーナリスト・映画監督の三上智恵さんを招き全日制の「平和講話」が行われた。

高江のヘリパット、普天間基地の辺野古移設反対運動を題材に、講話と映像で生徒に迫った。特に映像に見入る生徒の姿が印象的であった。HR係の高良先生お疲れ様でした。

これまでの、平和教育は沖縄戦の実相を伝え、反戦への気持ちを醸成するという形のものが多かったと考えるが、今回のように身近にある沖縄の基地問題から「平和とは何か」という切り口で生徒に迫り、その中で「戦争になれば・・・先の沖縄戦の悲惨な現状に目を向けさせる」という形の方が効果があるのかもしれない。特に視覚的に迫ることは大事だと考える。また、今の日常生活と戦争は決してかけ離れているものではなく身近なものだと考えさせる必要がある。

◆平和教育に大事なものは以下のことだと考える。

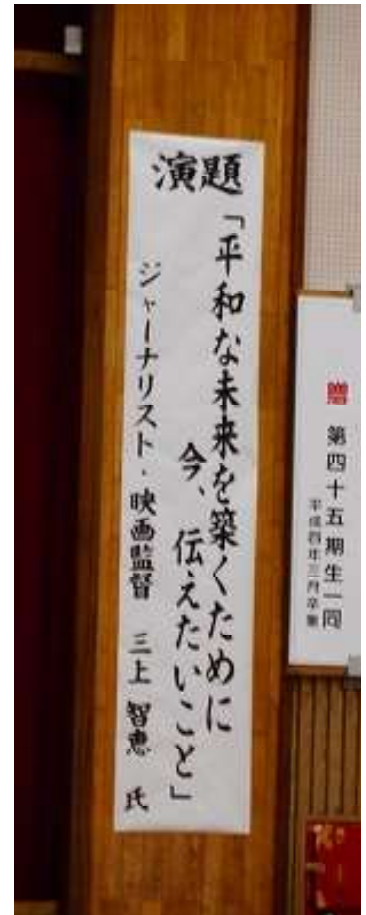
- 1 生徒に、戦争(争い)を憎む気持ちを醸成させる
- 2 生徒に、先の大戦の実情を知り、何故起こったかを考えさせる

教職員として特に沖縄、長崎、広島の地に生まれたものとして、平和教育に取り組む責務がある。→教職員の「平和教育」の学びの課題

- 3 生徒に、これから戦争のない世の中を作るためには、どのような考えに立つべきかを考えさせる

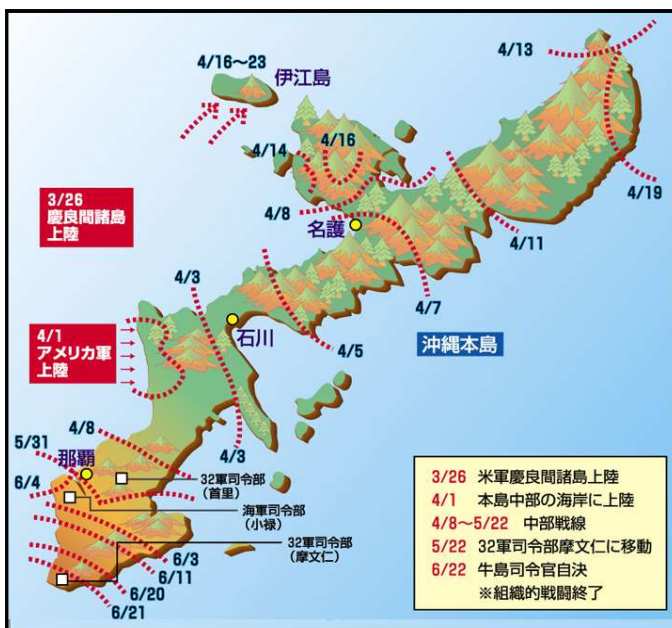


- 4 特に、沖縄の基地問題(日米安全保障条約)、日本と近隣国との関係、中東の戦争、西洋諸国(日本含む)とテロの問題・・・等々を生徒に考えさせる機会が必要ではないかと考える・・・答えは出ないかもしれないが、「考え抜くこと」が「考える力をつける」ことにつながり、政治(社会)会参加への意識の醸成を図ることにつながる。



5 生徒同士の人間関係、他人を思いやる、価値観の違いを超えて理解しあえる事の重要性が大事であることを学ばせる

- ・特に、慰霊の日に向けての平和学習に向けて頑張っていきましょう！！
- ・担任の先生方の奮闘に期待します（特に若い先生方は先輩方から学んで下さい。私も20代から集めた平和教育の資料を持っています。参考にしたい方は声をかけて下さい）
- ・我々、教職員も積極的に学ぶ！
- ・慰霊の日に向けた取組だけでなく、年間を通して「例えば、中東で起きてる戦争、沖縄県と国との訴訟・・・様々な題材が転がっている。そのような事(新聞等を利用)をHRで話し、考えさせる機会を年間を通して持つこともできる。
- ・一例だが「HRの年間の最大の目標は平和教育」という目標(切り口)でHR経営をしてもおもしろい。年間を通して考えさせることで、人権教育にもつながり支持的風土のHRづくりにもつながる。その教育的広がり大きい。



三上智恵 氏